

女性視点による

高知港湾・空港整備事務所 企画調整課 橋田 智和
高知港湾・空港整備事務所 企画調整課長 岡本 英幸

本稿は高知港・高知港海岸で整備が進められている「三重防護」について、その整備目的や減災効果を一般市民の方により深く知ってもらうため、「高知つつみ『堤』の会」が高知港湾・空港整備事務所と協力のもと、海上からの事業見学会等を開催し、女性視点による説明を行うことで、参加した市民が本事業の重要性・必要性について理解を深めることができた実績について報告するものである。

キーワード 高知つつみ『堤』の会, 女性視点, 三重防護, 津波対策

1. はじめに

(1) 高知港の概要

高知港は、土佐湾の中央部に位置し、西に桂浜、東に種崎の砂浜が延び、太平洋の荒波を遮る天然の良港である。浦戸湾周辺には市街地が広がり、湾の奥に県庁や高知駅の中心地、湾の入口に高知新港がある。浦戸湾は、湾内の面積が約6.5km²の南北に細長い湾で、東側の仁井田地区などでは埋立が進み工場等が建設されているが、西側は市街地に隣接していながら自然が多く残されている。



写-1 高知港周边航空写真

(2) 津波の歴史

南海トラフを震源域とする地震は約90～150年毎に発生しており、直近では昭和南海地震の津波により市街地の多くが浸水し、約2万人が被災し231人が亡くなった。

南海トラフを震源とする、※M8~9クラスの巨大地震

は、30年以内の発生確率が70～80%と予測されており、高知県では震度7の揺れが発生し、※2津波高は高知市で16m、須崎市で25m、黒潮町で34mと推計されている。

※1 内閣府HP「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応の検討について」(地震調査研究推進本部地震調査委員会の調査、平成30年1月1日現在)による

※2 内閣府HP「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」(資料1-2都府県別市町村別最大津波高一覧表＜満潮位＞)による



写-2 昭和南海地震発生後と現在の高知市の写真

2. 高知港における津波対策

(1) 三重防護

南海トラフの地震津波から高知市街地を守るため、高知港・高知港海岸においては、①沖合の防波堤（第1ライン）、②浦戸湾口の堤防等（第2ライン）により効果的に津波エネルギーを減衰させ、津波の侵入や北上を防止・低減し、③浦戸湾内の防潮堤（第3ライン）により市街地への津波の侵入を合理的に防ぐ、「三重防護」方式によるハード対策を進めている。これらは百年から百数十年の高い頻度で発生する地震津波（レベル1）には、浸水を防ぎ、想定される最大級の地震津波（レベル2）

には、浸水は許すものの構造物が耐え凌ぐことで、避難時間を稼ぐ役割を果たすことを目的として整備している。国と高知県が分担し事業を進めており、堤防等の総延長は約30kmである。

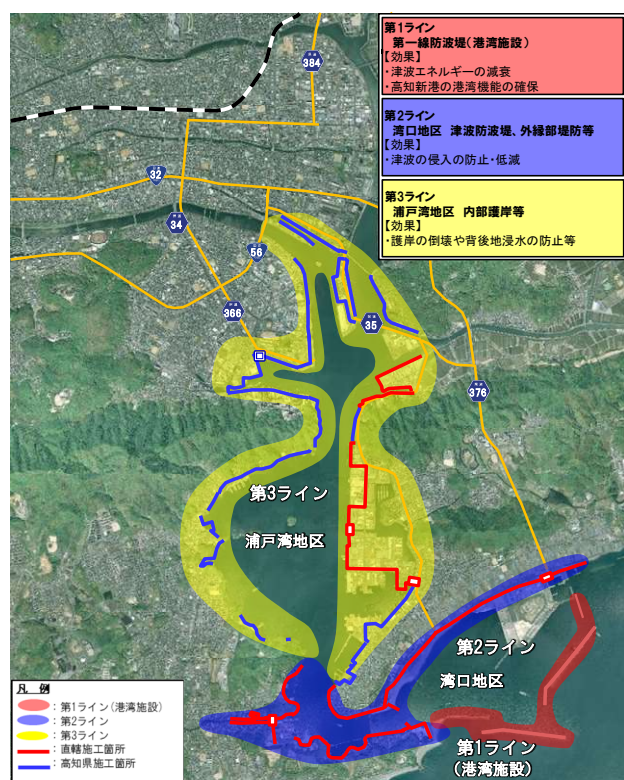


図-1 高知港海岸における三重防護のイメージ

(2) 津波対策の周知

現在、当事務所では防災意識の向上や「三重防護」の周知に加え、港の役割を理解してもらうことを目的に小中学生への出前授業を行っている。また、一般の方を対象に、港湾業務艇「とさかぜ」に乗船し、普段見る機会の少ない海からの景色を楽しみながら、みなとに親しみをってもらうことを目的に、高知港と須崎港にて「みなとウォッチング」を毎年開催している。その他、随時現場見学も受け付けており「三重防護」についての説明も行っている。事務所X（旧ツイッター）ではイベント情報等の掲載や、クルーズ船初寄港時の様子などの投稿を行い、広く市民の方に当事務所の事業について理解して頂けるよう広報活動を行っている。

令和3年度からは次節に登場する女性経営者等による団体「高知つつみ『堤』の会」が主催し、当事務所協力のもと「三重防護」について、その整備目的や減災効果を一般市民の方により深く知ってもらうための取り組みを行っている。

3. 高知つつみ『堤』の会の取り組み

(1) 高知つつみ『堤』の会とは

高知つつみ『堤』の会とは高知商工会議所、高知商工会議所女性会、高知おかみさん会、高知市旅館ホテル協同組合女性部が参画し、地元経済界として、南海トラフ巨大地震から県都高知市の経済活動を守り、将来に渡って安心安全な雇用環境、経営環境を実現するため、女性視点による高知港・高知港海岸の三重防護の早期完了に向けた要望活動等を行うことを目的に令和3年2月4日に設立された会である。団体名には、堤防の早期完了によって、県都高知市を安心安全で「つつむ」という意味を込めている。女性ならではの（孫を思う母親）の目線から、避難等のソフト対策にしっかりと取り組むことを前提に、当事務所が実施中の三重防護事業（ハード対策）のより一層の推進を訴えている。

(2) 「三重防護」を知る

令和3年5月27日に 高知商工会議所女性会を中心に約20名が参加し、高知港海岸整備事業の視察研修を開催した。これは、南海トラフ巨大地震・津波の発生時に、「命と暮らしを守ることに加え、経営環境と雇用環境を守る」という高知市女性経営者の問題意識から企画されたものである。本視察研修会では事業概要の説明を受けた後、堤防工事現場の視察や港湾業務艇「とさかぜ」による海上視察が行われ、三重防護の取り組みを理解する機会となった。また、今後発生が切迫している南海トラフ巨大地震に対し、事業の進捗状況がおおよそ20%（見学会当時）であることを知った参加者からは、「防波堤の粘り強い化をやり終えるにはあと何年かかるのか?」「発災後の避難については、自治体と市民の連携によるソフト面の取り組みが進んでいるので、ハード面の三重防護についても早期に完成するように整備を加速して欲しい」との要望が上がるなど、「三重防護」の取り組みを理解する機会となった。



写-3 堤防工事現場の視察（種崎外縁工区）

(3) 「三重防護」を一般市民に教える

高知商工会議所女性会の視察研修から約半年後の令和3年11月7日、8日の二日間において「高知つつみ『堤』の会」主催で、船から高知港を見学する見学会を開催した。本見学会は「三重防護」の必要性を広く一般市民に伝えるため企画したものであり、地元住民や浦戸湾内に立地の企業担当者、大学生や防災学習に取り組む小学生など、延べ22人が参加した。先ず、見学会に訪れた参加者は、当事務所の職員から三重防護事業の概要説明を受け、その後、同事務所の港湾業務艇「とさかぜ」に乗船し、約1時間にわたり高知新港や浦戸湾内を周遊しながら「三重防護」の整備箇所を見学した。参加者からは「船に乗って、実際に波を体感することで、防波堤の効果を実感することができた。」「日常生活を安心して暮らせるような取り組みをしてくれてありがたい」など、整備の重要性を実感する声が挙がった。また、高知つつみ『堤』の会の古谷代表は「三重防護は市民生活を守る大切な事業。早期完成に向けた要望活動と地域住民へ理解を拡げるための啓発活動を継続して行っていきたい。三重防護がいかに大切か、早く完成させなければいけないか、ということを感じていただき、見学会で体験したことを周りの皆さんに伝えていって欲しい。」と活動の意義を語った。



写-4 船内での様子

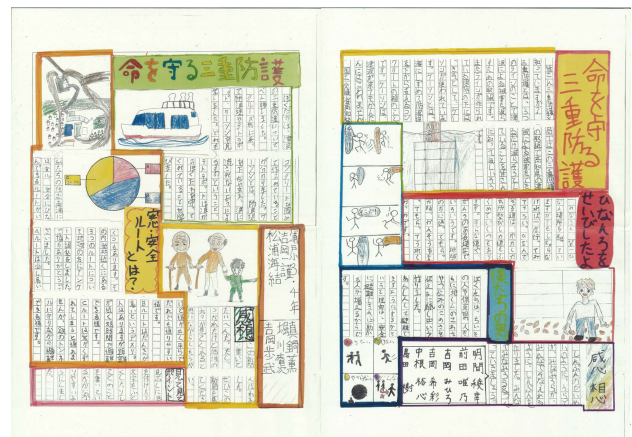
(4) 「三重防護」を地元児童に教える

令和4年11月2日に浦戸小学校3～4年生（参加人数は生徒、教員併せて19名）を対象に「三重防護」について、その整備目的や減災効果をより深く知ってもらうため、「南海トラフ地震の津波から高知市を守る！高知港『三重防護』クルーズ見学会」と題して船に乗って海から見学するツアーを開催した。まず、座学として三重防護事業の概要説明や防災に関するクイズを行い、その後、港湾業務艇「とさかぜ」に乗船し、整備箇所の見学を行った。参加者からは、「防災のことがクイズ形式で解りやすく、備えが大事だとわかった」「三重防護について見学できたことで防災に関する意識がさらに強められたと思います」等の感想があり、本事業の重要性・必要性に

ついて、理解が深まったと考えられる。



写-5 高知港クルーズ見学の様子



写-6 浦戸小学校児童が作成した学級新聞

(5) 講演会で考える

令和5年3月11日に浦戸湾内での工事着手などにより事業が市民の方々に身近となることを踏まえ、防災意識の更なる醸成や高知港海岸三重防護の整備進捗について理解を深めることを目的に、「地震津波防災を考える講演会inこうち」が開催された際に、パネルディスカッションとして「地震津波防災を考える」をテーマに古谷代表が登壇した。市民・経営者の視点から、三重防護の早期完成の必要性を訴えた。



写-7 パネルディスカッションの様子

(6) 出前授業で理解を深める

令和5年6月2日に五台山小学校3～4年生27名を対象に父兄参観日の出前授業を開催した。当日は高知つつみ『堤』の会からの挨拶後、防災に関するクイズや「四国地方整備局の仕事」と題して講義を行った。日程の都合で現地視察はできず机上の講義のみとなったが、東日本大震災の教訓から地震津波に対する備えの必要性和「三重防護」の効果について説明し、事業に対する理解を深めることが出来たと考えられる。



写-8 出前授業の様子

(7) 「三重防護」の早期完成に向けた要望活動

毎年、高知つつみ『堤』の会は国土交通省港湾局長要望及び四国地方整備局長要望を行っている。要望では南海トラフ地震が発生した場合、小規模事業者が約9割を占める高知県において、経営の継続や従業員の雇用の維持が困難になるなど、県民生活に甚大な影響が及ぶことから高知港における「三重防護」による地震・津波対策の早期完了の必要性を訴えている。こうした地元からの強い要望は三重防護事業の整備促進に貢献している。



写-9 国土交通省港湾局長要望の様子

4. おわりに

(1) 女性視点による周知啓発効果

通常、事業の現場見学会等は発注者等または受注者により主催・実施されることが多い。しかし、女性経営者団体が主催し、当事務所と協力する形で実施された本取り組みにおいては、単に事務所職員による説明等にとどまらず、当該女性経営者団体も主体的に参画し、女性視点による説明等を行うことで、参加した市民に本事業の重要性・必要性をよりわかりやすく伝えることができた。また、令和3年11月7、8日に開催した見学会においてはマスコミ5社（テレビ報道3社、新聞報道2社）が報道し、三重防護の情報が、紙面・テレビ・WEB等で幅広く発信することができ広く一般市民に広報することができた。

(2) 取り組みに対する評価

高知つつみ『堤』の会は、これまでの継続的な取り組みが評価され、令和4年5月25日に公益社団法人日本港湾協会企画賞を、令和6年4月15日に四国地方整備局広報企画委員長特別賞を受賞している。



写-10 日本港湾協会企画賞受賞の様子

(3) これまでの活動

- R3.2 「高知つつみ『堤』の会」が発足
- R3.5 高知商工会議所女性会による視察
- R3.11 高知港「三重防護」クルーズ見学会の開催
- R4.5 日本港湾協会 企画賞受賞
- R4.11 浦戸小学校3～4年生を対象にクルーズ見学会
- R5.3 「地震津波防災を考える講演会inこうち」パネリスト
- R5.6 五台山小学校3～4年生出前授業
- R6.4 四国地方整備局広報企画委員長特別賞受賞
- R3～R6 国土交通省港湾局長・四国地方整備局長要望

参考文献

- 1) 高知市 HP 過去の南海地震写真
- 2) 内閣府 HP 南海トラフ地震防災対策